

「いただきます」、「ごちそうさま」を見つめて

栄養管理課 課長 管理栄養士 山本 美子



「いただきます！」かわいらしい園児達が小さな両手を合わせ、日本古来の美しい所作を施しながらほほえみ保育園のお昼ごはんが始まります。保育士の先生方の優しい「どうぞ」の声かけを合図に小さなお口にお肉やお魚、野菜を美味しくそうに頬張る子ども達…。先生が「お魚さん おいしいね～」と伝えると「うん おいしい！」とはじける笑顔で答えます。これは当院の事業所内認可保育園「ほほえみ保育園」12時過ぎの風景です。



保育園の食事プレート

同じ頃、病棟では看護師・介護士・セラピストさん達が患者さまへ昼食のセッティングをしています。お茶の準備やベッドの角度の調整、車椅子に移乗したりなど「いただきます」への準備です。また、ご自分の力で食べることが難しい患者さまに対してはご家族や職員が「〇〇さん、『いただきます』をしましょうか。」「今日のメニューはお魚のウニ焼みたいですよ。おいしそうですね。」などの会話を話しかけながら食事介助をしています。

私達は昼食の時間に病棟へ足を運びます。栄養処方内容の説明と提供しているお食事の「かたさ」や「かたち」がその方に適しているかどうかの確認のためです。

時代の移り変わりと共に入院患者さまも高齢化の一途を辿り、食べることが困難な患者さまに対する栄養支援業務に比重が傾きつつあります。そのため、患者さま・ご家族・他部署の職員との関わりが増え始め、患者さま本人の想いに触れることやその生活背景に寄り添うことで「食べること」「栄養をとること」「健康を保つこと」への患



5月3日のカツオのちぐさ巻



5月5日のお子様ランチ

者サポートを実施する機会が少しずつ増えています。

お食事をとることは、健康状態や栄養状態を保つ上で重要ですが、私達人間にとっては何よりも「楽しみなこと」という意味で心豊かな生活を送るためにも大切なことです。

しかし、入院患者さまの中には食べることが苦痛に感じられる患者さまもいらっしゃいます。胃癌手術後の患者さまや食べる意欲がなくなった高齢者の患者さまなど、色々なケースがあります。そんな時はその気持ちにそっと寄り添い、「食べたいな…」と思うタイミングを見計らいアプローチをします。また、食べる力が弱くなった患者さまの「食べたい」と思う気持ちには、できる限りその方に合わせた処方でお食事の対応をします。当院のフードサービスは、季節を感じて頂くための行事食やご家庭でのぬくもりを思い出して頂くために味



元日の昼食



3月3日のひな祭り行事食

調理技術の簡便化が加速度的に進み、素材そのものに対する配慮も昔ほどではなくなってきている今だからこそ、私達が守りたいものがあります。

これからもその想いを胸に栄養課職員みんなで小さな子どもさんから高齢者の方々までの「食」を通したお手伝いをさせて頂きたいと思っています。「食べること」でお困りのことがございましたら、お気軽にお声かけください。

院内に栄養、食事に関する情報提供を行っています



外来掲示板<ゴールデンウィーク行事食について>



掲示板<飲料水の糖分について>